

目次

まえがき 1

第一部 ふるさと喜界島 7

- 一 喜界島の今昔 7
- 三 わが腕白時代 19

二 生い立ち 14

第二部 最初の旅立ち 27

- 一 北九州へ 27
- 三 製菓所奉公 43
- 五 ハイヤーの助手時代 56

- 二 船員になりたい 37
- 四 沖売り商売 51
- 六 入院・敗残の身を故郷へ 60

第三部 岩倉市郎さんとの再会 67

- 一 医者通い 67
- 二 徴兵検査、青年会 70
- 三 岩倉市郎さんの助手として 77
- 四 澁澤敬三先生からの手紙 88

第四部 アチック・ミュージアムでの生活 99

- 一 東京へ 99
- 二 澁澤邸に入る 103
- 三 澁澤先生と岩倉さんの勧め 110
- 四 アチック・ミュージアムのこと 116
- 五 二十六歳からの学生生活 125
- 六 切り盛り役を引き継ぐ 132
- 七 戦時下の澁澤邸 136
- 八 岩倉市郎さんの他界と私の結婚 144
- 九 空襲下の生活 149
- 十 敗戦と澁澤先生の「ニコ没」時代 159
- 十一 書生時代に別れを告げて 167

第五部 新しい門出 175

- 一 任地北九州へ 175
- 二 澁澤先生の訪問 177
- 三 電気通信技官として 184
- 四 奄美の本土復帰と転勤の希望 190

第六部 再び東京へ 195

- 一 一家の上京 195
- 二 電電公社通信技術職員として 200

- 三 野方電話局にて 204
- 四 電電公社を退職する 208
- 五 三十年振りのふるさと訪問 212
- 六 澁澤先生の他界と遺された言葉 215

第七部 第二の人生 220

- 一 退職後の人生設計 220
- 二 にわか営業所長 226
- 三 妻の協力和子供達の成長 230
- 四 最後の花道 233

第八部 余生 235

- 一 母との永別 235
- 二 『喜界島風土記』を書く 237
- 三 岩倉市郎さんの顕彰碑の建立 241
- 四 私の家族 248

むすび 252

参考文献 255

編集後記(香月洋一郎) 256

資料『喜界島生活誌調査要目』 258

索引 278